

# 国語科学習指導案

I 単元 「クラブ活動リーフレット」を作ろう

## II 考察

### 1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

様子や特徴を伝える言葉についての知識及び、読み手に伝わるように文章の中で用いる技能

②思考力・判断力・表現力等

読み手や目的を意識して、文章に使われているクラブのよさを表す言葉や、言葉同士のつながりの適切さを考え、より適切なもの書き換える力。

③学びに向かう力、人間性等

読み手への伝わり方について友達と確かめ合いながら、対象の特徴を伝える語彙の選択を繰り返したり、段落構成を意識したりして文章を作成しようとする態度。

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと(1)

エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめた入りして、文や文章を整えること。

(3) 単元の価値

本単元は、クラブのよいところを家族や友達、下級生等に伝える「クラブ活動リーフレット」を書く学習である。その価値は以下のとおりである。

4年生の子どもたちが本年度から取り組んでいるクラブの時間は、他の授業とは異なって、自分が興味をもっている活動を選択して取り組むものである。そのため、他のクラブの友達やまだクラブに取り組んでいない下級生、クラブの活動をなかなか見ることのない家族などの様々な読み手を想定し、自分のクラブの具体的な活動やそのよさをリーフレットを通して読み手に知らせるといった言語活動は、自分が書いた文章がどのように読み手に伝わるかを友達と確かめ合いながら、語彙や段落構成を意識して文章を作成しようとする態度を養う上で有効である。

また、個々の興味に沿って取り組むクラブであるからこそ、1人1人が感じるよさには違いがあるし、複数のよさを感じていると考えられる。だが、実態として、子どもたちは物事のよさを「楽しい」「面白い」といった限られた語彙で表現してしまうことが多い。そのような子どもたちにとって、1人1人が感じる自分なりのよさにぴったりと合う言葉を探して文章を書くことは、物事の様子や特徴を伝える語彙についての知識を得たり、その言葉を実際の文章の中で読み手に伝わるように用いる技能を育む上で有効である。

さらに、子どもたちが感じたよさを、自分たちが想定した読み手に向けてリーフレットにする

際には、書いた文章を推敲し、相手に適切に伝わるものになっているかを確認する必要がある。伝えたい内容である自分の思いが適切な言葉で表されているか、主語と述語のつながりが明確であるか、また、読み手を意識して敬体と常体が適切に用いられているか等、これまでの「書くこと」の学習で学んだことを生かしながら、文章の適切さを判断し、書き換えていくこととなる。そのことから、読み手や目的を意識して、文章に使われているクラブのよさを表す言葉や、言葉同士のつながりの適切さを考え、より適切なものに書き換える力を育む上で有効である。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「研究レポートを書こう」(『わたしの研究レポート』)における、身近な生活の中で疑問に思うことについて、必要な事柄を調べ、分かったことを明確にしてレポートを書く学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

本単元で育成を目指す資質・能力に関わって、4年生におけるこれまでの国語学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 「文と文をつなぐ言葉」において、文同士の関係を示す様々な言葉についての知識を広げ、それらを用いて短文を書くことができるようになってきている。このような子どもたちが、物事の様子や特徴を伝える言葉についての知識を広げることができるよう、「+ (プラス) な思いを伝える言葉」の一覧を用意し、その中から言葉を選んだり国語辞典で意味を確認したりする活動を設定する。
- ② 「くらべ上手になろう！」(『アップとルーズで伝える』)において、対比的な段落構成に合った書き方になっているかを確認しながら文章を書くことができるようになってきている。このような子どもたちが、クラブのよさについて、相手や目的に応じた適切な文章になっているかを確認しながら文章を書き直すことができるよう、同じクラブの友達と文章を推敲し合う活動を設定する。
- ③ 「調べたことを整理して発表しよう」(『だれもが関わり合えるように』『手と心で読む』)において、自分が興味をもって調べたことについて、聞き手への分かりやすさを意識して言葉を選ぼうとするようになってきている。このような子どもたちが、クラブのよさを表す言葉の読み手への伝わり方を友達と確かめ合いながら、より適切によさを伝える言葉の選択を繰り返すことができるよう、下書きした文章を友達同士で読み合い、アドバイスを伝え合う活動を設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習 (5 / 9 時間目)

- 1 ねらい リーフレットの下書きを友達と読み合い、文章のよい点や改善点を伝え合うことを通して、言葉の選び方や言葉同士のつながりについて、読み手や目的に応じた適切なものであるか確かめたり、より適切なものに書き換えたりすることができる。
- 2 準備 推敲のモデル文 『にこにこ言葉』集 下書きプリント 国語辞典
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・「快適だ」だと大人っぽい感じだけど、「気	○よさを表す言葉の語感に着目することを意識 付けられるよう、よさを表す複数の言葉の印

分がよい」は3年生でも分かりやすいね。  
・家庭科クラブのよさを「やりがいがある」「楽しさがある」としたよ。3年生に伝わりやすい文章になっているかな。

象を問いかける。

○前時の学習の成果を想起できるよう、前時に書いた下書きプリントと振り返りを見直すよう促す。

めあて よさが伝わる文章にするために、アドバイスし合おう。

「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

互いの文章について、言葉の辞書的な意味や読み手が受ける印象に着目し、伝えたいよさと用いている言葉、主語と述語等のつながりを捉え、適切な言葉を選んで修正している。

- 2 下書きを読み合い、アドバイスをする。
- ・友達は、家庭科クラブのよさを「快適だ」「気軽さがある」と書いているな。
  - ・3年生に向けて書いているのに「快適」は難しいなあ。一覧表の「やりがいがある」にしたり、辞書にある「気持ちよく過ごせる」に言い換えたりしたらどうかな。
  - ・友達が「最後は『です』にした方がいい」と書いてくれたけど、どうしてなのか聞いてみよう。
  - ・「やりがいがある」というのは、辞書で調べると「やる価値がある」ということだよ。そうした方が3年生が興味をもつと思うよ。
- 3 アドバイスを参考に、下書きを修正する。
- ・辞書で調べたら、「わくわく」は期待や喜びを表すとあったよ。確かに家庭科クラブにはそういうよさもあるから、「わくわく」に直すことにしよう。
  - ・3年生には、「～だ」と書くより、「～です」と丁寧に書いた方が読みやすいかもしれない。「～だ」「～です」が混ざっていたから、全部「～です」にそろえて書こう。
- 4 本時の振り返りをする。
- ・友達のアドバイスを参考にしたら、もっと3年生に伝わる文章になったな。

- クラブのよさを共有しやすい者同士でアドバイスをし合えるよう、同じクラブの友達同士のグループで活動するよう促す。
- 友達が選んだ言葉の伝わり方や修正案を明示できるよう、下書きプリントのコメント欄に、言葉から受けた印象や、代わりに使うとよい言葉をメモするよう促す。
- 下書きを修正する際の参考にできるよう、友達のアドバイスを讀んだり、不明な点を友達に直接尋ねたりするよう促す。
- 友達から尋ねられた場合には、友達に納得してもらえるよう、理由や根拠を合わせて伝えるよう促す。
- 本時の授業を通して、文章中の言葉の適切さを確かめられるよう、以下の情報源を活用するよう促す。(例:「にこにこ言葉」集, 国語ファイル, 国語辞典, 教科書)

評価項目

言葉の辞書的な意味や読み手への伝わり方を根拠にして、アドバイスや下書きの修正をしている。 <下書きプリント (②)>

- 本時の学習の成果を自覚することができるよう、資質・能力の三つの柱に基づいた視点で振り返りを書くよう促す。

指導と評価の計画（全9時間）

目標	物事の特徴や様子を表す言葉について語彙を広げ、読み手や目的に合わせて言葉の選択や言葉同士のつながり等の適切さを考え、文章を整える。			
評価 規準	(①知識及び技能)クラブのよさを伝える言葉について、その語彙を広げ、文章の中で用いている。 (②思考力、判断力、表現力等)リーフレットの読み手や目的を意識して、クラブのよさを伝える言葉や、主語と述語のつながり等の適切さを考え、文章を整えている。 (③主体的に学習に取り組む態度)進んで使える語彙を広げたり、言葉の適切さを繰り返し確かめて文章を整えたりしようとしている。			
見方・ 考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よさ」を伝える言葉について、読み手への伝わり方、辞書的な意味等に注目して適切さを判断したり、より適切な言葉に直したりしようとする事。</li> <li>・主語と述語、漢字の使い方等に注目して、言葉と言葉のつながりの適切さを判断したり、より適切なつながりに直したりしようとする事。</li> </ul>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つか かむ	1	○よさを伝える言葉による印象の違いや、リーフレット作りに必要なことを話し合い、学習課題を立てる。 学習課題：「読み手にクラブのよさをうまく伝える言葉を工夫して、クラブ活動リーフレットをつくらう。」	○よさを伝える言葉を考えることや、文章を推敲することへの問題意識をもてるよう、よさを表現した複数の文章を基に、伝わり方の違いを話し合う活動を設定する。(i)	◇学習への見通しや期待を発言したり記述したりしている。 <発言・振り返り③>
	1	○学習計画を立て、リーフレットの読み手やクラブのよさを伝える言葉について話し合う。	○クラブのよさを伝える言葉について新しい言葉に出会えるよう、『にこにこ言葉』集を用意する。	◇新しく使ってみたい言葉を一覧から選んだり、辞書で意味を調べたりしている。 <発言・学習プリント①③>
ふか める	2	○自分のクラブのよさを下書きする。	○新しい言葉や、言葉に関わる既習の知識を意識して書けるよう、『にこにこ言葉』集や、つなぎ言葉の一覧等を提示する。	◇クラブのよさを伝える言葉や、主語と述語のつながり等に気を付けて下書きをしている。 <下書きプリント①>
	1	<b>○下書きを友達と読み合い、アドバイスし合う。(本時)</b>	○クラブでの体験を共有する子ども同士で言葉の適切さを話し合えるよう、同じクラブの友達同士でグループを編成する。	◇言葉の辞書的な意味や読み手への伝わり方を根拠にして、アドバイスや下書きの修正をしている。 <下書きプリント②>
	1	○書き直した文章と下書きを読み比べ、伝わり方の違いを話し合う。	○書き直した文章を、元の下書きと比較できるように、元の下書きのコピーを用意する。	◇書き直した文章と下書きの伝わり方の違いを基に、文章の適切さに気付いたり、適切な文章に修正したりしている。 <下書きプリント②>
	2	○リーフレットの清書をする。	○読み手の読みやすさに配慮して、清書や表紙づくりを繰り返しやり直せるよう、表紙の台紙や文章清書用の用紙等を十分に用意する。	◇読み手の読みやすさに配慮しながら、文章を清書したり、表紙等の形式を整えたりしてリーフレットを作成している。 <リーフレット③>
ふり か え る	1	(完成したリーフレットを読んでもらい、感想を集める。) ○読み手の感想を読み合い、単元の学習を振り返る。	○学習の成果を実感できるよう、実際の読み手の感想を共有する場を設ける。	◇単元を通じた自分の成長や友達のがんばり、学習の成果を生活に生かす意欲等を発言したり記述したりしている。 <発言・振り返り③>
<b>【備考】</b> ○事前にアンケートを実施し、よさを伝える言葉についての子どもたちの使用実態を把握する。 ○「ふかめる」過程では、毎時間の授業冒頭で、モデル文の推敲の仕方や言葉の印象等を話し合う短時間の活動を設定する。				